

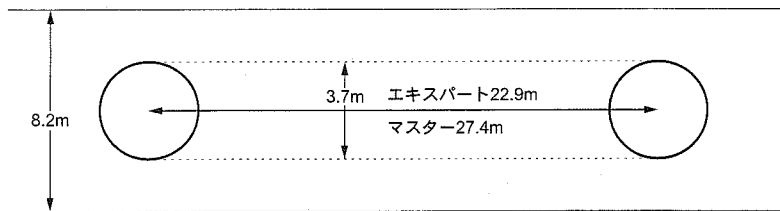
日本ディスクゴルフ協会 (JPDGA) 公認指導員認定講習会実技テスト内容テストの方法

テストの方法

- ①受講者と検定員は、それぞれの円内に、向い合うように立ちます。
- ②受講者は検定員に向かってディスクを投げます。
- ③直径3.7メートルの円内ならば、どの位置から投げてもかまいません。
- ④検定員は円内で、キャッチするように努めます。
- ⑤検定員が正確にキャッチした時、有効なスローとなります。検定員のミスでキャッチ出来なかった時は、有効なスローとする事が出来ません。
- ⑥検定員がキャッチした後、円からステップアウトしてしまった場合、スローは無効となります。
- ⑦受講者はテストの順番を選ぶ事ができます。
- ⑧制限時間内ならば、それぞれのテストを何度でもやり直す事ができます。
- ⑨制限時間内に全てのテストをクリアすれば合格です。
- ⑩不合格になった場合、同じ日に再受験は出来ません。

*テストにはラウンドノーズ・ディスクのうち、水に浮く重さのディスクを使用します。ラウンドノーズ・ディスクとは、キャッチングが出来るようにエッジを丸くデザインしたタイプをさします。それに対し、ディスクゴルフ専用のエッジが鋭いタイプは、シャープエッジ・ディスクと呼んでいます。

【設定コート】



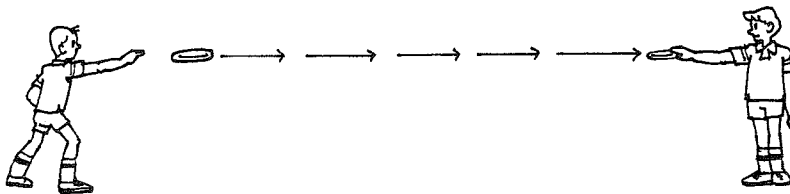
テストの共通種目

[テスト1] ストレート・フライト

ディスクは、幅3.7メートルのライン内を、水平に飛行しなければなりません。

少しでもラインの外に出た場合は、有効と認められません。

[テスト1] ストレート・フライト



[テスト2] ライト・カーブ

ディスクは一旦、幅8.2メートルのライン外に出て、右にカーブしなければなりません。

ラインの外に、完全にディスクが出ない場合は、有効と認められません。

[テスト3] レフト・カーブ

ディスクは一旦、幅8.2メートルのライン外に出て、左にカーブしなければなりません。

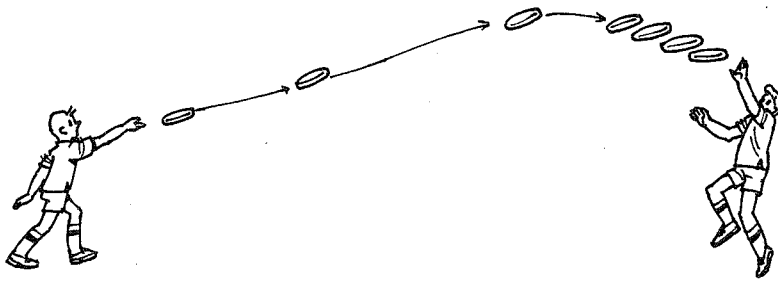
ラインの外に、完全にディスクが出ない場合は、有効と認められません。

[テスト4] ホバー（フローター）・フライト

ディスクは上向きに飛行し、検定員の頭上付近から、パワーと落下しなければなりません。

落下したディスクを、チップング出来る事が、目安となります。

[テスト4] ホバー（フローター）・フライト

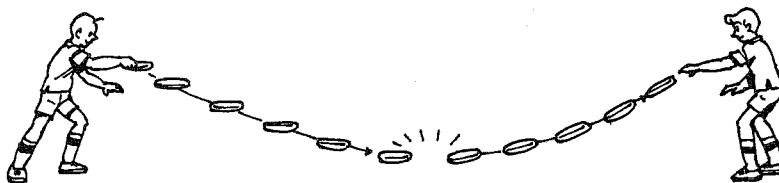


[テスト5] スキップ・フライト

ディスクは地面にバウンドし、浮き上がるように飛行しなければなりません。

バウンドした後、転がったり、浮き上がらなかった場合は、有効とは認められません。

[テスト5] スキップ・フライト



[テスト6] ディスタンス（遠投）

ディスクは、幅8.2メートル延長上のラインの内側に、落下しなければなりません。

エキスパート

〔テスト7〕 自由選択、およびマスター〔テスト9〕 自由選択

〔テスト1〕 から〔テスト5〕 の内、2種目の課題を選択する。

資格の合格基準エキスパート

①制限時間 30分

②距離 22.9メートル

③投げ方

〔テスト1〕 から〔テスト5〕 までは、バックハンド・スロー、サイドアーム・スロー、アンダーハンド・スローのいずれかを選択し、その投げ方で通さなければいけません。

〔テスト6〕 は、投げ方の制限はありません。

〔テスト7〕 は、〔テスト1〕 から〔テスト5〕 で、選択しなかった投げ方で投げなければいけません。

④合格基準

〔テスト1〕 は、4投連続して、成功すること。

〔テスト2〕 から〔テスト5〕 までは、2投連続して、成功すること。

〔テスト6〕 の、ディスタンス（遠投）は、風上から2投、風下から2投を投げ、平均遠投距離が、27.4メートル以上であること。

〔テスト7〕 の、自由選択（2種目）は、上記の合格基準に従う。

〔キャッチング・テスト〕 は、2回連続して、成功すること。

ただし、検定員のスローイングがミスと認められた時は、やり直す事ができる。

- a) スタンダードキャッチ（右手）
- b) スタンダードキャッチ（左手）
- c) バックキャッチマスター
- d) レッグスキャッチ

資格の合格基準マスター

① 制限時間 60分

② 距離 27.4メートル

③ 投げ方

〔テスト1〕 から〔テスト5〕 は、バックハンド・スロー、サイドアーム・スロー、アンダーハンド・スローのいずれかを選択し、その投げ方で通さなければいけません。

〔テスト6〕 から〔テスト7〕 は、投げ方の制限はありません。

〔テスト8〕 は、オーバーハンド・スローで投げます。

〔テスト9〕は、〔テスト1〕から〔テスト5〕で、選択しなかった投げ方で投げなければいけません。

④ 合格基準

〔テスト1〕から〔テスト5〕までは、4投連続して、成功すること。

〔テスト6〕の、ディスタンス（遠投）は、風上から2投、風下から2投を投げ、平均遠投距離が、36.6メートル以上であること。

〔テスト7〕TRC（Throw run & Catch）または、ATM（Maximumtime aloft）

TRCかATMを選択します。

2投連続して、成功すること。

TRCは、ディスクを空中に投げ、それが地面に落ちる前に、片手でキャッチし、その飛距離が24.4メートル以上であること。

ATMは、ディスクを空中に投げ、それが地面に落ちる前に、片手でキャッチし、その滞空時間が6秒以上であること。

〔テスト8〕オーバーハンド・スローは、〔テスト1〕から〔テスト5〕の内、2種目の課題を選択します。上記の合格基準に従う。

〔テスト9〕自由選択（2種目）

テスト1～5の内、2種目の課題を選択します。

〔キャッチング・テスト〕

ただし、検定員のスローイングがミスと認められた時は、やり直す事ができる。

a) から c) までは、4回連続して、成功すること。

d) から g) までは、3回連続して、成功すること。

a) スタンダード・キャッチ（右手）

b) スタンダード・キャッチ（左手）

c) バック・キャッチ

d) レッグス・キャッチ

e) ヘッド・キャッチ

f) フィンガー・キャッチ

g) チッピング・キャッチ（2回以上チッピングした後、片手でスタンダード・キャッチをする）